

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2151 号

Use of skin advanced glycation end product levels measured using a simple non-invasive method as a biological marker for the diagnosis of neuropsychiatric diseases

簡便かつ非侵襲的方法による皮下糖化最終産物の、精神神経疾患の診断における生物学的マーカーとしての可能性

山下 大樹 (やました ひろき)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、単純で非侵襲的に測定できる皮膚 AGEs レベルがと、統合失調症や大うつ病性障害、神経変性疾患などの代表的な神経精神疾患との関連を分析したもので、皮膚 AGEs レベルは診断支援生物学的マーカーに成り得ないことを始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

本研究では、統合失調症の患者 27 人、大うつ病性障害の患者 26 人、アルツハイマー病またはレビー小体による神経認知障害の患者 10 人、および健康な対照として 26 人を登録し、各疾患群で皮膚 AGEs レベルを非侵襲的に計測した。皮膚 AGEs レベルの測定は、蛍光測定法を応用した AGEs スキャナーを用いて行われた。各疾患群の年齢、性別、BMI、皮膚 AGEs についてまとめ、群間に差がないかを分析した。性別について健常者群が大うつ病性障害群に比して女性が多い以外には差はなく、年齢や BMI については差が見られなかった。また年齢を有意な共変量として各疾患の診断が皮膚 AGEs レベルに与える影響について一元配置分散分析を行ったが、疾患の診断が皮膚 AGEs レベルに与える影響に差は見られなかった。

そのため神経精神疾患患者への皮膚 AGEs レベルの測定は、これらの疾患の診断支援生物学的マーカーとしての可能性を示さなかった。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。